三井の仕打ちに怒り

原告団がカンパと訪問活動

ＣＯ家族の会会長　石原　マサ子

有明大災害から一カ月過ぎ、亡くなられた人の四十九日の法要も済み、遺族のみなさんのさびしさは言葉で言いあらわせないと思います。

有明炭鉱は最新式の機械を入れ煙感知器やガス警報器を取り付けているので、安心して働いてくださいと労働者をだまして働かせていたのです。警察の調べで、この感知器は何の役にも立っていなかったと聞き、ほんとうに腹が立ってどうしようもありませんでした。

相変らず生産第一で、保安は形だけだったのです。

二十年前の三十八年十一月九日の三川鉱炭じん爆発の大惨事は、散水をして炭粉をまいておけば、あのような大惨事は起きなかったのです。四百五十八人の労働者を殺し、八百三十九人のＣＯ患者が今だに苦しみ続けているのに、またしても同じ惨事が起きたのです。

同じ惨事を繰り返し、労働者を虫けらのように殺し続ける三井鉱山の保安サボは絶対に許されません。

原告団の活動

私たちは原告団として、ただちに抗議のビラ配りをしたあと、一月二十九日の定期総会で、この災害の責任追及と被災者の救援を決議し、場内カンパを訴えるとともに総会終了後、市内の新栄町、松屋前、四山県境で救援カンパを訴えました。八万四千四百二十五円の暖かいカンパが寄せられました。

また二月十五日、三川人事前で会社に抗議し、労働者や家族の皆さんにカンパを訴え、三万六千七百三十一円が寄せられました。

原告団は二月五日、十九日の二回にわたって、ＣＯ患者見舞と亡くなられた遺族の家を訪問してお参りし励ましました。

今度のＣＯ患者は軽いと医師も他の人たちも安心しておられますが、私たちは三十八年、四十二年の患者も軽いといわれた患者が、とくにいろんな合併症で苦しんでいるし、死亡者も多いのです。

今度の患者さんたちについても十分に治療をしてもらいたいと思います。

原告団役員は四班に分かれ、私は下請けの方々のお宅にお参りさせていただきました。勝立社宅の九人の遺族の方たちにお目にかかり、組織のない労働者に対する会社の態度に腹が立ちました。

2月15日、三川鉱の人事係事務所の前で、有明鉱大災害の救援カンパに立った原告団の人びと。

遺族団を訪問

皆さんが言われたのは、事故発生から家族への連絡の遅いこと、雪の中を一人で夫の確認を行なった時の心細かったこと、葬儀や火葬場の手続きも家族、親せきがしなければならず、住所の違う人は火葬場の心配からあったことなどを話されました。

社長が弔慰金を持ってきた時、一人息子を殺された家族は「息子を返せ」「独身というだけで生命に値段をつけるのか」「息子を殺してまでも差別するのは許せない」「この金をやるからあんたが死ね」と、怒りをぶっつけています。そして下請けの遺族に社宅の追いたてを言ってきているとか、今さらながら三井の仕打ちに怒りがこみあげてきます。

小宮さん宅は、五人目の子供さんが産まれ、まだ産院から帰っておられず、奥さんのお母さんが手伝いにきておられました。これから先、二年生の女の子を頭に五人の子供をかかえてどうして生きていくのかと思うと、娘や孫たちがかわいそうでと涙ぐんでおられました。

私たちで力になることがあるなら一緒に頑張りましょう、といって帰りました。

遺族の中西さんや渡辺さんたちは、二十年前の自分たちの姿を見るようでつらかったと思いますが、私たちには三池労組という強い組織があることに誇りを感じました。これからも出来るだけ遺族の家をまわり、お互いに力になりたいと思っています。そして一日も早く裁判勝利をたたかいとるために頑張らねばならないと思いました。

生命と健康を守るたたかいなしには働き続けることはむずかしいと、つくづく感じたしだいです。

強制連行朝鮮人の記録から

あとがきにかえて

十六分会　武松　輝男

第十一回

強制連行朝鮮人収容所跡を『みいけ』紙上で連載させてもらったのは、三池炭鉱に関係するそれらの収容所が、どこに、どういう名称で、どれだけあったのかを知ってほしいと思ったからである。

私は、大牟田を訪ねてきた人びとを、三池監獄跡や修羅坑跡、囚人墓地、それに強制連行朝鮮人収容所跡などによく案内する。興味本意で見る人、俳句や短歌、文学の素材にするための人、あるいは大学の卒業論文のための、部厚いメモ片手の場合もある。

もっと別の視点では、日本キリスト教団の人びとのように、在日韓国人や在日朝鮮人の差別問題と取り組んでいる場合もある。

これらの人びとを案内するたびに、強制連行朝鮮人収容所というこの忌わしい言葉でつづらなければならない朝鮮人たちの苦難に満ちた生活に、強い胸の痛みを感じる。

思うに、田や畑でその日の生活を支えるための農作業をしている朝鮮人たちを逃げ路をふさぐようにして捕捉して、そのまま日本へ連れてくるという、まるで白日夢の神かくしのような所作をしている。私たちがまだ幼かったころ、日暮れどきになると「人さらいがくる」という母親の叱咤におびえながら帰宅していたことをおぼえている。その幼ない頃のおびえとは比較にならない恐怖であったろうと思う。

中国残留孤児といわれる人びとの四十年経た今日、生みの親と祖国を慕う心情と、強制連行された朝鮮人の祖国と家族を慕う感情にどれだけの違いがあろうか。残留孤児には涙を流し、強制連行朝鮮人には、なぜその話すら避けようとするのだろうか。

強制連行朝鮮人収容所にまつわるいろいろな話は、戦時中の一過性の痕跡ではないと考えている。そこには、人間社会がもっている支配と被支配という、いまわしい制度がある。その制度は、戦時中という一定の枠組みの中での出来事ではなくて、きわめて真新しい今日的意味合いをもっている。この今日的意味合いを、差別という言葉で置き換えることもできる。

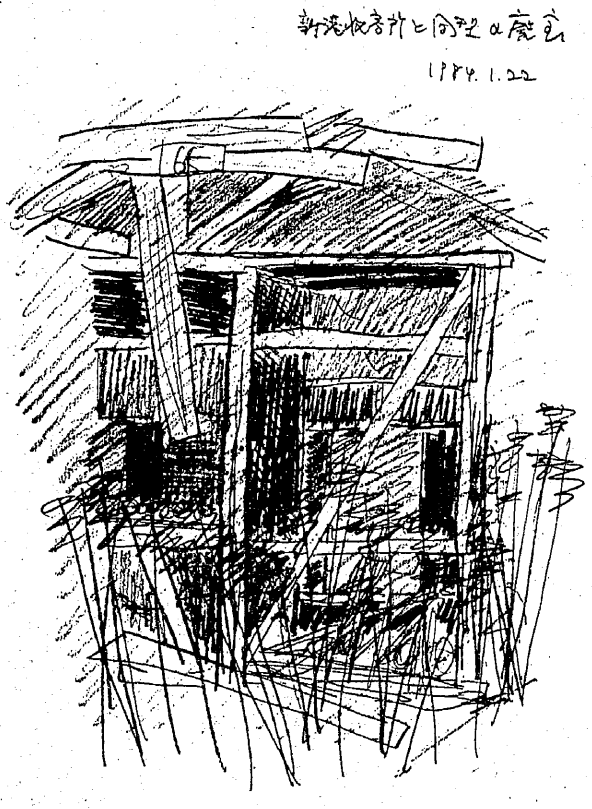
強制連行朝鮮人は、この差別と蔑視の中で呻吟したのである。

人間の精神構造というのは、きわめて脆弱なものである。たとえば三池炭鉱で例をとれば、従業員から末端職制に昇格すると、その翌日から愚痴をこぼし合った、かつての同僚にさえ口をきかなくなるということが、日常茶飯事におきている。微細な権力と言おうかそういう末端職制のもっている微細な権力とでも言うものですら、それを掌中に入れると個別的優性の幻想にとりつかれるのである。

こういう三池炭鉱の内部にある選択への願望というのが、強制連行朝鮮人と対応する担当者になかったとは、言い伝えの話の中でも否定できない。

この差別というものは、自分の身に置き換えないと、その痛みや悲しみは理解できない。差別され蔑視されながら、坑内という暗闇の労働にかり立てられた朝鮮人の痛みや悲しみを理解するためには朝鮮人がかつて収容されていた収容所の朽ちたたたずまいに、受難の歴史と語りを重ねるという作業をおこなって、はじめて痛みが痛みとなり、悲しみが悲しみとなってよみがえるのではないかと思うのである。私は、訪ねる人びとを案内しながら、いつもそういうねがいにかられる。そして強制連行朝鮮人収容所跡がもっている、今日的課題の重さにおののいている。

（カットも筆者）



3月の園芸

十四分会（三川）　田上　勇

盆樹の植え替え時期です。寒がらずに早目に取り組みましょう。

ウメの植え替え

開花がおくれていますが、花が八分どおり終わったら全部摘み取り植え替えます。整枝は芽を残してせん定、鉢から引き抜き、古土を思い切り落とし、根も三分の一ぐらいを切ります。用土は赤玉土に山砂を二割ぐらい混ぜ合わせ植え付けます。植え替え後は水をたっぷり与え直射日光を避け、二週間後に肥料を与えます。

松などの植え替え

黒松は一般的に三～四年に一回の割で植え替えますが、古樹と若木では長期・短期に区別します。古土を落とし、根の整理をして植え込みます。用土は赤玉土六～七に山砂三～四割の混合比でよいでしょう。

錦松も黒松と同じ方法で行いますが、注意しなければならないのは皮を痛めぬようにすることと、用土は砂を少な目にすること。

五葉松も錦松とほとんど同じ方法で五月頃までに植え替えます。

杜松は三年に一回ぐらいの割で植え替え、杜松は水を好みますので赤玉土七、山砂三ぐらいで植え込みます。根切りは細根が多いため太根を切りつめ、ある程度細根も切りつめます。

オモトの植え替え

オモトは砂の単用で結構ですが、軽石、赤玉土、クレーポールなども砂との混用もできます。とくに木炭片をまぜ合わせるとよいということです。年一回ぐらいがよく、植え込んだら十分間ぐらい水につけて根に用土をおちつかせ、炭に水を含ませます。しばらくは日陰に置き、活着後薄日に当てます。

クレマチズの植え替え

芽の動く前後がよく、赤玉土七、腐葉土三の割で植え付けます。その時、一芽以上を土中にかくれるように植え替えます。黒くなった根や痛んだ根は切り取ります。あとは凍らせないように、水を切らさず、根付いたら日光によく当てることです。いずれの場合も用土は乾き気味の方が、根の間によく入り込みます。

サルスベリのせん定

芽の出る前の今頃がよく、樹木は固いのでハサミで切る場合は割れないように回し切りか、ノコを使って切ります。

時のことば

教育臨調

改憲論者で知られる中曽根首相は、戦後の教育制度についても「米国の制度をまねしたもの。日本独自の精神的基盤が欠落している」として、その改革を主張。教育臨調はそのためのもので、強い権限をもつ首相直属の臨時行政調査会（臨調）の〝教育版〟的機関。政府は、委員を九～十五人、設置期間は三年とし、新機関の設置法案を今月中に提出、五月中には設立させる構えです。しかし、その強権的性格や密室性、教育の中立性が侵される危険性は強く、警戒が高まっています。